

全生活史健忘患者に対するイソミタール面接施行についての1考¹⁾

高田 千華¹⁾ 東 和也²⁾ 西村 良二¹⁾

¹⁾福岡大学医学部精神医学講座

²⁾福岡病院

要旨：筆者らは、遁走を伴う全生活史健忘の中年女性の症例の治療を経験した。全生活史健忘の治療については、催眠やバルビタール系薬物による面接などが報告されている。しかし、一方では、全生活史健忘は単なる忘却ではなく、これらの忘却された体験を無理に想起させると、不機嫌になったり、抑うつ状態が強くなったり、自殺の危険性さえ高まるという見解がある。本症例では、健忘の遷延化の恐れが濃厚になったため、イソミタール面接を行うことを決定した。その結果、記憶の回復をはかることに成功した。このことから、全生活史健忘においては、イソミタール面接の効用と限界を患者に十分に説明するとともに、記憶の再生だけを目指すのではなく、支持的な精神療法を同時に行いながら、記憶回復後の環境調整を心がければ、イソミタール面接は全生活史健忘の有力な治療法の1つであることを論じた。

索引用語：解離性障害、全生活史健忘、遁走、イソミタール面接